

軍配山古墳(高崎市)

これが軍配山古墳/4世紀末築造/二段築成の円墳/葺石も埴輪もない/主体部は竪穴系/田圃の、ど真ん中に所在する/南側から見たところ



近づいて見たところ/説明坂が立っている





本来の名称は御幣山古墳で、天正10年(1582年)、本能寺の変の17日後の6月19日、上野国に侵攻してきた小田原の北条氏直と、それに対峙するために織田家重臣の滝川一益とが戦った神流川合戦の際に、滝川一益がここに本陣を置き、軍配を振るったと伝えられていることから、この名が付いたらしい

御幣山〈軍配山〉古墳

所在地 玉村町大字角刈

当古墳は、昭和五年二月に発掘された。出土品は墳丘上の碑文に記されているが中国渡来の白銅製内行花文鏡二面をはじめ、勾玉管玉鉄鏃その他鉄器類がある。それらは東京上野の国立博物館に保存されている。中国渡来の内行花文鏡の出土は、当古墳の被葬者が、かなりの豪族であったことを推定させる。附近の烏川段丘上には相当数の古墳が存在していたが、それからの出土品には、本墳のようなすぐれたものがないことからすると、本墳の被葬者が、この附近一帯の有力な支配者的存在であったと推定できる。古墳の型式は円墳、主体部の型式は不明。後藤守一氏は築造年代を碑文に示されているが、いずれにしても古墳時代初期に属するものである。一名軍配山と呼ぶが、それは天正十年神流川合戦の折、滝川一益が本古墳を本陣として軍配をふるって全軍を指揮したために名付けられたものと伝えられている。

昭和五十一年四月 玉村町教育委員会

こちらは「古墳カルタ」と標柱



ASITAを走ろう

ASITAカルタで結ぶサイクリングロード



郷土の歴史 古墳に学ぶ 軍配山

軍配山古墳 (玉村町指定史跡)

軍配山古墳は、竪穴式の円墳で古墳時代の前期に作られたと推定され、銅鏡など貴重な出土品が見つかっている。軍配山の名は、天正10（1582）年の神流川合戦に滝川一益がここに陣をしき軍配をふるったところから付けられたと伝えられている。

所 在 ----- 佐渡郡玉村町大字角淵

読み札作者 ----- 伊勢崎市 星野正明

Mt. Gunbai Tomb (a designated historical site in Tamamura)

The Mt. Gunbai tomb, in the circular shaft style, is presumed to have been made in the early Kofun period (late 3rd century/early 4th century). Bronze mirrors and other valuable articles have been excavated there. The name, Mt. Gunbai, is said to date from 1582, when Takigawa Kazumasu was camped there during the Kanna River War and waved the military leaders fan (Gunbai).

Place : Kakubuchi, Tamamura



西側から見たところ



墳丘の裾を見たところ



北側から見たところ



北東側から見たところ/墳頂に石碑が見える



アップで見たところ



東側から見たところ



さて、墳丘に登ってみよう/小祠が立ち並ぶ



先程の石碑



そこから南方向(神流川の合戦があった神流川の方向)を見たところ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/tamamura_gunbai/

<http://tigerdream-no.blog.jp/archives/8217175.html>

<http://kdshiro.blog.fc2.com/blog-entry-1625.html>

